

特集

角膜実質細胞研究リビジット

序 論

雑賀司珠也*

今月号では角膜実質の研究の進捗について、4名のエキスパートの先生方にご担当いただきました。角膜ジストロフィでは実質細胞に遺伝子レベルの異常が存在する場合(顆粒状角膜ジストロフィ, 格子状角膜ジストロフィの *TGFBI* 遺伝子異常)だけでなく, 膠様滴状角膜ジストロフィのように, 上皮の異常が原因で, 上皮より深い部分や実質に異常アミロイドの沈着が生じる病態もあります。

実質細胞は組織内に散在するのではなく, お互いが三次元的に連結してネットワークを構成し, 情報を伝達していることが知られています。透明性という角膜組織の根源的特徴の障害には, 遺伝

子異常の有無に関わらず, 実質細胞の不都合な挙動が重要な役割を担っています。実質が障害を受けた後の創傷治癒過程での細胞外マトリックスの異常と実質細胞が形質転換した筋線維芽細胞の異常な収縮が瘢痕混濁と形状不整(乱視)の原因となります。そこに感染が加わると, 感染細菌から放出される酵素・毒素などによって, さらに病態が複雑になってしまいます。

細隙灯顕微鏡検査の際には, 細胞レベルでどのようなことが起こっているか? ということに思いを巡らせながら, 角膜の病的所見を診察いただければ, 特集編集者として光栄です。

*Shizuya Saika 和歌山県立医科大学眼科学講座